

令和 6 年度第 3 回勝浦市地域公共交通活性化協議会 会議録

日時 令和 7 年 1 月 30 日（木） 午後 2 時から

開催場所 勝浦市役所 4 階 大会議室

出席者

【委員】別紙の通り

【事務局】勝浦市企画課課長（青山） 政策推進係（忍足・鈴木）

会議次第

1. 開会
2. 議題
 - （1）令和 6 年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について
 - （2）勝浦市地域公共交通計画の変更について
3. 報告
 - （1）地域公共交通計画における実施事業の進捗状況について
4. その他
5. 閉会

概要

1. 開会

（事務局・青山）

定刻となりましたので、ただ今より、令和 6 年度第 3 回勝浦市地域公共交通活性化協議会を開催いたします。私は、勝浦市企画課の青山と申します。本日はどうぞ宜しくお願いいたします。着座にて失礼いたします。

始めに、資料の確認をさせていただきます。全部で 5 点となります。1 つ目が、会議次第、委員名簿、座席表と議題 1 の資料がホチキス止めで一体となったものです。2 つ目が、議題 2 と右上にあるもので、A3 の折り込みが入っているホチキス止めのものです。3 つ目が、参考資料①として、カラーの 1 枚のものです。4 つ目が、参考資料②として、2 枚をホチキス止めしたものです。5 つ目が、参考資料③、A3 が 1 枚のものです。以上 5 点、お手元にございますか。

次に、本日、出席いただきました委員の皆様の紹介でございしますが、座席表に記載のとおりでございしますので、これにてご了解いただきますようお願い申し上げます。

なお、千葉県総合企画部交通計画課の山崎様が代理出席で座席表にございますが、本日は欠席とのご連絡がございました。

また、勝浦市民生委員児童協議会会長の内田様も本日欠席となっております。また、事前に千葉県バス協会専務理事の成田様、勝浦市高齢者支援課長の篠宮様につきましても欠席の連絡を承っております。

また、本日、会長の了解を得ましてオブザーバーとしてエミタスタクシー南総の親会社に当たります三ツ矢エミタスタクシーホールディングス様及び本年度、勝浦市地域公共交通計画推進業務にご協力いただいているランドブレイン様に出席いただいております。

本日の出席者数については、委員総数 20 名のうち、出席者数 16 名です。委員総数の過半数に達していることを報告いたします。

次に、本会議につきましては、原則公開としておりますが、現在のところ、傍聴の申出がありませんことを報告いたします。

私の方からは以上です。

これより議事に入りますが、議事の進行につきましては、会長の加藤副市長にお願いしたいと思います。会長よろしくお願いします。

(会長・加藤委員)

はい。皆様、改めまして、こんにちは。本年もどうぞよろしくお願いいたします。それでは早速、本日の会議に入りたいと思います。

本日の会議は、次第にありますとおり、議題として2件。1つ目が、『令和6年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について』、2つ目、『勝浦市地域公共交通計画の変更について』、以上です。また、報告事項として、『地域公共交通計画における実施事業の進捗状況について』、1件であります。全3件でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、報告の1つ目であります、『令和6年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について』事務局より説明を求めます。

2. 議題(1)

【令和6年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について】

(事務局・忍足)

それでは、令和6年度地域公共交通確保維持改善事業に係る事業評価について説明いたします。

これは、国の補助金の交付を受けて運行するデマンドタクシーについて、地域公共交通確保維持改善事業実施要領に基づき、毎年度、事業実績を踏まえた評価を行うことで、より効果的な事業の実施にかなげようとするもので、補助金交付制度の一環として事業評価の実施が求められているものでございます。ちなみに、事業年度として令和6年度とありますが、デマンドタクシーの運行期間としますと、令和5年10月から令和6年の9月までの1年間となります。

それでは、資料に沿って説明させていただきます。資料①をお手元にご用意願います。

3ページが国土交通省関東運輸局への送付文となります。本日の会議が終了しましたらメールにて関東運輸局へ提出したいと考えております。

4ページが勝浦市における公共交通の課題や状況、デマンドタクシーの運行に係る方針や目標のほか、勝浦市におけるデマンドタクシーの運行状況、本協議会の開催状況などを記載しております。

5ページにはこの後添付しております参考資料の名称を記載しております。

6ページが事業評価について記載した部分となりまして、①運行事業者は小湊鉄道株式会社となります。

②事業概要につきましては、運行区域として自由乗降区域を記載しております。

③前回の事業評価結果の反映状況でございますが、運行の周知・利用促進のため広報誌に掲載したことや、利用ニーズの把握及び利用促進のための乗降者数等の分析の実施、感染症の拡大防止の取組について記載しております。

④事業実施の適切性につきましては、感染症対策を実施したうえで、運行自体は継続できたことから、事業は計画どおり適切に実施されたものとし、評価を3段階評価のうちAとさせていただきます。

⑤目標・効果達成状況についてでございますが、目標値は1日当たりの平均利用者数を15人として

おり、分析としましては、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類感染症へ移行されたことに伴い、外出等の行動制限がなくなり、利用者数（対前年度比+119人）は徐々に回復傾向にあるものの、実績数値では1日当たりの平均利用者数が14.8人（対前年度比+0.4人）であり、目標値を若干下回りました。

このことから評価はBとさせていただきます。

⑥事業の今後の改善点でございますが、

- ・引き続き広報やHP等を活用し、利用促進に向けた継続的な啓発等を実施する。
- ・地域公共交通計画に基づき、デマンドタクシーの運行サービスの見直しを検討するとともに利便性向上を図る。
- ・事業者と連携し、利用者実態動向とニーズを把握し、利用促進を図る。
- ・利用促進を図るため地域公共交通計画に定める各種事業に取り組んでいくこととしております。

続いて、7ページには地域公共交通計画との関連性を記載しております。

8ページ以降は参考資料を添付しておりますが、その中で9ページの期間中の運行実績をご覧くださいと思います。乗車人数は前年度から119人増加しております。下段には運行経費とその財源の内訳を記載しております。市から運行事業者の小湊鉄道に支払う委託料は、1日当たり49,500円でございますので、年間292日運行し、14,454,000円となります。その財源として運賃収入が1,472,600円、国の補助金が4,331,000円、残りの8,650,400円が市の負担となっております。

議題の1に関しましての説明は以上となります。

（会長・加藤委員）

ただ今、事務局より説明がありました、

『令和6年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について』ご質問・ご意見等がありますでしょうか。

（渡邊委員）

ABCの評価について、基準を教えてください。

（事務局・忍足）

基本的にはAが達成しているもの、Bが、達成していないもの。Cは、全く実施していないというものという評価になっています。今回は、Aに非常に近い状況なのですが、実際の目標を達成していないということで、昨年度もですが、Bという評価になってございます。

（会長・加藤委員）

他にございますか。

（高橋委員）

6ページの⑥番の事業の今後の改善点、上から2つ目の、「地域公共交通計画に基づき、デマンドタクシーの運行サービスの見直しを検討するとともに利便性向上を図る」というところで、今回、新型コロナウイルス感染症が5類移行になったことで、分析にもありますが利用者数が徐々に回復傾向ということで、それを含めて、デマンドのサービスの見直しの変更など、新たな施策等がありましたら参考まで

に教えていただけたらと思います。

(事務局・忍足)

実際に、デマンドタクシーの利用促進ということにつきましては、この10月から3台運行を行っております。こちらの評価は、昨年の9月末時点のものとなっておりますので、デマンドタクシーの実績値は2台体制のもので表記されておりますが、市の交通計画上、デマンドタクシーの利便性を向上するために区域を拡大したり、台数を増加したりすることが、市の方針と考えております。

後程、報告事項としてデマンドタクシーの運行区域拡大した部分について、ご説明を申し上げますが、そういった部分について、実際には、今年度、既に動いておりますが、今後の改善点として上げさせていただきます。

(会長・加藤委員)

その他に何かございますか。

(会長・加藤委員)

高橋委員にお伺います。先程ご質問された新たな施策について、他の自治体の交通会議にも参加されていると思いますが、新型コロナウイルスが5類になったことによって、利用者の行動が変わり動きが自然に戻っている状況のなか、新たな施策を行っている自治体では、どのような取り組みがあるのでしょうか。

(高橋委員)

新たな施策というものではないのですが、例えば、周知についてです。利用者に、アンケートを行い、その結果に基づいて増便や減便を行う等、アンケートで利用者のお話を聞いて変えていく形があります。デマンドや、コミュニティバスでは、ルートの再編等を行っているところがあります。新たにこれというものは、なかなかないです。あとは地域性によりますが、ところどころで行われているものはこういったものです。このようなお応えでよろしいでしょうか。

(会長・加藤委員)

承知しました。高橋委員から話があったものを含め、ランドブレインさんに入らせていただいておりますので、次の期間で目標達成ができるように取り組み、評価等も実施していただいた上で、数値が上がる仕組みを作っていきたいと思っております。

その他、ございますか。よろしいでしょうか。

お諮りいたします。

『令和6年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について』ご異議ありませんか。

—異議なし—

『令和6年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について』は承認されました。

次に『勝浦市地域公共交通計画の変更について』を議題とします。事務局より説明を求めます。

2. 議題 (2)

【勝浦市地域公共交通計画の変更について】

(事務局説明・青山課長)

地域公共交通計画の変更について、説明をさせていただきます。

資料をご用意ください。右上に議題2と書かれております、「地域公共交通計画の変更」と、右上に参考資料①と書いてあるもの、この2つの資料をご説明いたします。

まず、変更箇所ですが、1枚めくっていただき、一番右下の四角い赤い枠で書いてあるものが変更箇所になります。左側が現行の計画、右側が変更の案になります。

こちらの、「基本方針3：多様な主体との連携によるまちづくりと一体となった持続可能な公共交通を目指す」の「目標5：地域で支える公共交通の構築」の文言修正、2枚めくっていただき、変更案の、【事業14】こちら追加が今回の変更となります。

目標⑤の文言修正については、1枚目の右と左を比べていただき、黄色い所で色を塗ってありますが、これまでの文章、「地域資源の総動員により、多様な主体との連携を図りながら、公共交通の維持・確保に関する市民意識の醸成や、公共交通サービスの担い手確保など地域で支える持続可能な公共交通網の構築を目指す。」のうち、「公共交通サービスの担い手確保など」の後、「などに加え、新たな移動手段の導入について検討を図り、地域で支える持続可能な公共交通網の構築を目指す。」というところを付け加えさせていただきまして、修正案とさせていただきます。

1枚めくっていただき、こちらは、左が現行、右が変更案となりますが、一番下のところに、3-⑤【14】として「新しい移動手段の検討」を入れさせていただいております。

また、1枚めくりまして、A3の最後のページになりますが、右の変更案の赤枠のところが追加になっております。こちら【事業14】として、「新たな移動手段の検討」として、事業概要は「バス・タクシーのサービスは暮らしの基盤サービスとして最大限活用することが重要である。しかしながら、現状として、通院や買い物などの移動に困っているという市民の利便性を向上させるため、既存公共交通サービスを補うために、自家用有償旅客運送等の新たな移動手段について、地域住民や交通事業者を始めとした多様な主体との連携・協働を図りながら検討する。」とさせていただきます。

具体的な事業としましては、現段階では「自家用有償旅客運送等の検討」とさせていただきます。

具体的な内容ですが、参考資料の①になります。

昨年度、令和5年度第2回勝浦市地域公共交通活性化協議会においても、自家用有償旅客運送の検討について、お話をさせていただきました。

今回、お配りしました資料は、当時の資料から左下の「1乗車当たりの運賃・委託料(案)」の箇所を昨年度お配りした時は400円でしたが、こちらの方が、デマンドタクシーが400円から500円に運賃が上っておりますので、そちらに合わせて500円と修正させていただきました。それ以外は、昨年お配りいたしましたものと同様となります。

こちらの「自家用有償旅客運送」の制度につきまして、改めまして簡単にご説明させていただきます。

まず、裏面に、「自家用有償旅客運送」について書かれております。

こちら、バス・タクシー事業が成り立たない場合であって、地域における輸送手段の確保が必要な場合に、必要な安全上の措置をとった上で、市町村やNPO法人等が、自家用車を用いて有償で提供する運送サービスです。有償によるサービスであります。旅客から収受する対価は営利を目的としない妥当な範囲内と規定されております。

根拠となる法律は、バスやタクシーの運行について規定されている法律と同じく、道路運送法となります。記載のとおり、道路運送法の78条・79条に規定されております。

それでは、具体的にどのような運行を検討しているかと申しますと、表面に戻っていただき、こちら取組としては富山県朝日町の「ノッカル朝日町」という取組を参考にしております。

こちらは地域住民が日常的に行うマイカーでの移動に、地域住民が相乗りするといった、共助型の公共交通となっております。

運行サービスのイメージを簡単に申しますと、利用日の前日17時までにスマートフォンからのオンライン予約、又は、予約センターに電話して予約していただき、事前にドライバー登録された地域住民のマイカーに相乗りすることで、公共交通が不便な地域から市内の市街地へ移動するといったサービスになります。

最初は、総野地区での導入を考えておりますが、総野地区も広いので3地域程度に分割し導入することを目指しておりまして、今回は松野を中心とした中倉・市野川・蟹田での運行をイメージしております。

地図に記載のとおり、総野地区から市街地に向かう場合としては、乗降場所はまだまだこれからですが、例えば市野川、中倉、勝浦診療所、総野郵便局、総野集会所などから、利用者を乗せて市街地に向かいます。

市街地側では、ベisia勝浦店、勝浦市役所、勝浦駅、塩田病院などへ、利用者を降ろすといったイメージです。

下り方面では、ベisia勝浦店、勝浦市役所、勝浦駅、塩田病院などから、総野地区に戻るといった内容になります。

こちらのほうの制度ですが、まだ、住民の方々に本腰を入れて行うのがこれからですので、どのような形で運用するかというのは少しずつ、協議しながら進めて行きたいと考えておりますが、先進的に行っている自治体の例と、導入予定の現在の考えで申し上げますと、制度の特徴としましては、自家用有償ということで、自家用車での運行であり、プロのドライバーが運転手ではないというところにあります。仕事としてのドライバーでもありませんので、基本的に、親切で、ついでに乗せていくといったイメージで考えております。そのため、ドライバーの都合に合わせて利用者も乗っていくというイメージを考えています。

そのため、タクシーのように自由に迎えに来ていただいて、自由に降りることは想定しておりませんので、タクシーほどの便利さは無いということになります。

停留所のあるバス路線のほうは、定時定刻で動きますが、そちらのほうもどうかということもあります。あとは、乗合と言っても、バスではないので、バスのように大人数が乗車できるということはありませんし、また、運賃もバスほど安くはないということで考えております。

このように、タクシー、バス、とは違った、新しい形の移動手段であり、移動手段の選択肢を増やすためのもので、これまでのタクシーやバスの代替となるものではありません。

それなので、それぞれの交通手段のメリットを活かし、またデメリットを補いながら、市民の移動手段を確保していくための取組となりますので、皆さまにもご理解いただき、ご協力いただけるよう、これから市といたしましても、説明していきたいと考えております。

最後に、本年度の進捗状況ですが、少し、導入の予定よりも協議と業者の決定等が遅れておりまして、現在12月に事業者プロポーザルを提案いたしまして審査の結果、事業者が決まったところです。制度の詳細については繰り返しになりますが、これから住民の方の意向を聞きながら、利用者の利便性と持続の可能性といったバランスをとりながら交通事業者様とも協議しながら決めていきたいと考えております。

また、今年度につきましては、自家用有償旅客運送といいまして、有償なのですが、有償運行のところまで決めることができないと考えておりまして、今年度、3月までで言いますと、無償での実証運行を始めるというところまでを予定しているところです。

事務局からの説明は以上です。

(会長・加藤委員)

ただ今、事務局より説明がありました、『勝浦市地域公共交通計画の変更について』、自家用有償については、久しぶりに議題になっておりますので、ご質問・ご意見等が何かございましたらお願いします。

(高橋委員)

ただ今、ご説明にございました、有償旅客運送制度について確認をさせてください。

1点目、参考資料①総野地区を3地域に分けてとご説明がございましたが、ドライバーはこの3地域それぞれの中から担い手を探すということで、目星がついているということでしょうか。この地域の中で確保されていると考えてよろしいでしょうか。分かる範囲で教えてください。

(事務局・青山)

ドライバーは、これから探していくというところですよ。決まっているということではございません。最終的には、勿論多い方が良いのですが、先程の、今年度の実証実験というところでは、数人の方に手を挙げていただき、システムが稼働するかどうかの確認や、また実際に乗っていただき、ご意見をいただくということを考えております。

(高橋委員)

ありがとうございます。そうしますと、今後の想定としては、3地区からドライバーをそれぞれというお考えでしょうか。

と申しますのは、私は地域のことはわかってないですが、市野川から中倉でどなたかを拾う時に、例えば10時から16時までやりますといったときに、予約が市野川に1人あったとします。重ねて、中倉で3~4人利用者の予約の希望がでた場合に、ドライバーが時間内に利用者を捌けるかという問題があります。

例えば時間内の16時までには、ドライバーが自宅に戻るのか。利用者の方をそこまで降ろすのかというところですよ。仮に、定員を3名までとした場合は、4人目の予約は受け付けられないなどの対応を考えているのでしょうか。私の説明が分かりにくいかもしれませんが、上手く伝わりましたでしょうか。

要は、遠方からの利用者が利用する時に捌けるのか。それが、できるかできないか、対策や準備は出来ているという理解でよろしいでしょうか。

(事務局・青山)

ドライバー確保のイメージですが、原則は、ついでというところですので、同じ地区内という事が理想だと考えております。難しければ隣の地区ということになります。例えばこちらの図でいいますと、市野川などは、駅に行く時に、診療所や総野集会所を通ると想定できますので、市野川の方が松野の方を乗せて行く等も考えられると思います。遠いところからわざわざこの為に、利用者に乗せていくというイメージではないです。原則として近くの方で、理想としては、普段お話とかはされていないとして

も、どこの誰かがわかっている人達と一緒に乗せていくというイメージで考えています。あそこの誰々だねと、話したことがなくても元々知っている方、顔の見える方を想定しております。

利用者が沢山いた場合はどうするかというご質問ですが、それについては運用的な部分と、基本的な制度の問題があります。イメージとしては、例えばドライバーがベイシアに買物に行く等の時に手を挙げる形で、今までは自由に行っていましたところを、そういう制度があって乗っていきたいという人がいるならば、毎週水曜日のこの時間に行こうなどと決めていただき、決まった時間に動いていただくことをイメージしています。

仮に利用者が沢山いた場合に、ドライバーにそのような都合がない中、頑張ってやっていただくというよりは、ついでのドライバーをできれば探したいと考えています。利用者の希望が沢山あったとしても、ドライバーがいなければこの制度は成立しないと考えています。

その意味では、利用者は制限されてしまいますが、共助型といったことで、どうせ行くから乗せていくというようなイメージであります。無理のない範囲で、今あるもの、電車や、バス、タクシー等に加えてもう 1 つ、そこまで便利ではなくても、という気持ちを持ってやっていただける方が多くなれば、今より良くなるというところを目指して、システムというか枠組みというか、下地を作ることが行政としての役割かなと考えています。

(高橋委員)

そうしましたら、仮に松野地域だとしましたら、松野地域の方のドライバーさんで、ベイシアに行く方がいた場合、その方がついでのどうでしょうかということ、そのご近所さんを連れていくというイメージでよろしいですね。

(事務局・青山)

勿論、ちょっとくらい遠回りしても良いというドライバーの方がいらっしゃいましたら、お願いすることもあると思います。制度の原則的な考え方としては、ドライバーさんが、本当に自分の用事があって、塩田病院や、ベイシアに行くときに、「行きます」と手を挙げていただけて、その時に、私も乗せて行ってくださいという方がいれば、乗せて行くというようなイメージであります。

(高橋委員)

予約についてですが、予約システムを導入されるのでしょうか。

(事務局・青山)

はい。予約システムは導入します。予約システムといいますか、LINE のシステムを使って予約ができるような形にします。

スマホや LINE を普段使わないという方は、電話での予約もできるような形で、電話を受けた者がシステムに入力します。ドライバーの方は、スマホ等をみて、予約が入ったことの連絡を受け取るという方法で考えています。

(高橋委員)

周知はこれからでしょうか。3 月までに住民説明ということでしたので、住民説明会をしてからチラシの配布かなにかで周知を行うという形でしょうか。

(事務局・青山)

2月に入りましてから、この地区の区長の方々に説明し、その後に住民の方々に説明するという流れで考えています。

(高橋委員)

安全運行をお願いします。あとは、利用者や住民の方に説明等をお願いします。今後運行するにあたって、万が一利用できないという方がいた場合にはLINE等での対応も必要かと思います。

また、道路の運送法の手続きも必要になるので、相談等、事前に協議いただければと思います。

(渡邊委員)

総野地区会長の渡邊です。昨年から色々と話をしていますが、3月までのテスト期間について、もし事故を起こした場合、補償はドライバー個人の保険を使うという事が気になるところです。使うのは、病院の利用者が多いと思います。お年寄りが多くなるので、乗降車の際に躓く等で、怪我などすることも懸念されます。仮に、ドライバーがそれを補助した場合、逆に補助することで転んでしまうことも懸念されます。その辺りも検討をお願いします。

もう1つ気になっているのが、4月以降本格的に導入される場合ですが、1乗車あたりの運賃500円とありますが、こちらは確定申告にも関わってくると思います。収入の仕組みというところについて、どのようにお考えでしょうか。

(会長・加藤委員)

はい。今3点ありました。

事故時の保険の取り扱い、乗降時の怪我、収入の取り扱いです。

(事務局・青山)

まず、保険についてです。昨年度から説明しておりますものは、朝日町で始めているものについてです。ドライバーの任意保険で、対人対物無制限のものです。事故が起きた時には、そういった保険を使っていたらいいと、昨年の会議では説明しておりました。現在は、国の報道でもライドシェアについて頻繁に言っており、自治体でもそうした制度を導入するところが増えておりますので、保険会社からそうした制度用の保険というものが少しずつ出始めてきています。先程ご意見がありましたように、やはり、自分の保険を使うことに抵抗があるとか、安心して乗るためにというところもございますので、今までは、基本的に自分の保険しかなかったのですが、新しい商品などを確認し、市で一括して入れるものかどうか等、検討して調べているところです。こういった部分は、できるだけ用意したいなと考えているところです。

次に、乗降時の躓き等について怪我がないか等の懸念は難しいところで、デマンドタクシーやコミュニティバス等でも、同じように基本的には自分で乗り降りできる方が対象になります。そうはいつでもということはありませんので、本当に介助が必要な方はご遠慮いただくことになってしまうのではないかと考えております。

あとは、介護サービスが使えるならば、その辺りは、他のサービスをご案内しながら対応していきたいと考えております。

料金についてですが、こちらも難しいところがあります。現金収受がいいのか別の方法がいいのか、まだ決められていないので、この 500 円自体も、デマンドタクシーに合わせて 500 円との記載になっておりますが、これについても少し話し合い、他の事例も検討してというところになります。

料金は、まだこれから、受け渡しも含めてどうするかを、住民の方々とも話し合いながら決めていきたいと思います。

(渡邊委員)

リスクばかり気にしていても前に進みませんので、もし何かあった場合には協議できればと思います。

(会長・加藤委員)

今後、住民説明会を実施し進めていくにあたりまして、懸念点等がございましたら共有いただけたらと思います。

(柴関委員)

この制度については、学生も対象で考えられていますか。

(事務局・青山)

特に今のところ、年齢の制限をつける予定はないので、利用はできると思いますが、利用者の想定としまして、今は高齢者を考えております。制度の枠組みとして年齢条件をつける予定はないので、使うことはできると思います。例えば、行き先としては、塩田病院やベイシア等を想定しております。朝日町では子どもも乗せているようなので、ゆくゆくはそういったところに広げられるかというのも徐々に検討していきます。現時点では、年齢制限はしないけれども高齢者向けのサービスというように考えております。

(会長・加藤委員)

その他、ございますか。

私から何点かよろしいでしょうか。

この制度の 1 日の利用時間は、何時から何時までと想定していますか。

(事務局・青山)

時間については、今の時点でははっきり決めていませんが、基本的にはデマンドのサービス等と同様と考えているので、8時から 17 時くらいと考えております。またドライバーが、何時ならば対応できるかを相談しながら決めていくことになります。

日本版ライドシェア等で言っている、夜間は今のところ考えていないです。

先程も言ったように、まずは高齢者向けのサービスというところで考えておりますので、高齢者の移動時間に合わせ、午前中に病院に行く等が多いので、そういった時間帯をメインで考えております。

(会長・加藤委員)

曜日についてもこれからでしょうか。

(事務局・青山)

曜日についてもこれからですが、日曜日は病院が休みなので、日曜日は運行する予定はございません。また、最初のうちはデマンドほどできないと思っているので平日と言っても1日飛びとか、週に1回とか、そういったところからスタートになるのかなと考えております。

(会長・加藤委員)

ドライバーの確保という点でいえば土日の方ができそうですが、行き先が病院やベイシアでの買い物を想定すると、そこは柔軟に考えていただきたいです。

先程、学生も利用できるかという話もありましたが、バス等、公共交通のメリットもありますので、夕方、土曜日とか、部活の帰りに乗り合わせも考えられなくもないので、高齢者が想定ではありますが学生という目線も切らずに考えていただきたいです。

また、計画の改定というところで、資料をつけていただいておりますが、3枚目の変更案で実施時期が書いてありますが、今回令和6年度末の改正になるので、令和5年の矢印は不要ではないかと思えます。令和6年度中に改正するという事でよろしかったでしょうか。令和7年度でしょうか。

(事務局・忍足)

先程、課長からお話しましたとおり、昨年の会議の中で自家用有償を検討しているという事実がございます。また、関東運輸局にも確認をさせていただきましたが、令和6年度中の計画変更における、令和5年度の取扱いについては過去の話ではありますが、空欄にすることも、検討したという事実を残しておくことも問題ないとの回答をいただきました。最終的には、自治体の判断で差し支えないということですので、事務局としましては、昨年度にこのような検討をしてきたという経緯もあるため、できれば令和5年度の矢印を載せた状態で経緯を残した変更とさせていただければと思います。

(会長・加藤委員)

残したいということですね。令和5年度の矢印は残したいということですが、そちらについて意見等がありますか。

特にその他にご質問・ご意見はございませんか。

それではお諮りいたします。

『勝浦市地域公共交通計画の変更について』ご異議ありませんか。

— 異議なし —

『勝浦市地域公共交通計画の変更について』は承認されました。

続きまして「報告」に入ります。

『地域公共交通計画における実施事業の進捗状況について、事務局より説明を求めます。』

3. 報告(1)

【地域公共交通計画における実施事業の進捗状況】

(事務局説明・忍足)

それでは、地域公共交通計画における実施事業の進捗状況についてご説明いたします。内容としましては、2点ございまして、資料といたしましては、右上に参考資料②、参考資料③と書いてございます資料となります。1つ目が、①地域公共交通計画推進業務について、2つ目が、②10月より運行区域

を拡大しましたデマンドタクシーの運行実績状況についてです。

始めに1点目の「地域公共交通計画推進業務について」でございますが、こちらが参考資料の②となっております。

勝浦市では、令和5年2月に公共交通政策のマスタープランとなる「勝浦市地域公共交通計画」を策定し、その推進に向け、取り組むべき事業を掲げております。本年度は、公共交通等の適切な利用を促すモビリティ・マネジメントに資するソフト施策を中心に、計画に基づいた具体的取組を推進しております。内容としましては、JR・いすみ鉄道・小湊鐵道にご協力いただき、鉄道とバスを乗り継いで、乗り方教室や各種体験を通じて、子供たちに公共交通を身近に感じてもらうことを目的としたお出かけツアーを計画したところであります。計画段階においては、10/19と11/23の2回開催する予定でしたが、令和6年10月4日に発生しました「いすみ鉄道」の脱線事故により、ツアー当日までに運行再開の見通しが立たないため、本ツアーを一旦中止することにしました。

その後、いすみ鉄道の復旧状況を注視しながら、再度ツアーを計画しようとしたましたが、年度内に復旧することが難しい状況であるため、先日ランドブレインと市で協議した結果、本年度のツアー実施を中止することにしましたので、報告させていただきます。本件につきましては、次年度開催できるよう内容の見直しを含め検討して参りたいと思います。実際の申込者数につきましては、今回、2回開催させていただく予定でございまして、6組17名の方の申込みがございましたことを申し添えます。

次に資料をめぐっていただきまして、モビリティ・マネジメントに関するセミナーの件ですが、こちらは前回の会議において若干ふれさせていただきましたが、セミナーの内容が決定しましたので改めてお知らせさせていただきます。

開催日時でございますが、2月17日（月）13：30より、この会議室にて開催いたします。内容としまして、1つ目が、「公共交通のメリット・デメリット/公共交通のトレンド」について、日本大学理工学部交通システム工学科 特任教授の藤井敬宏さんに、ご講演いただきます。藤井様におかれましては、複数の県内自治体、柏、流山、市原、市川、茂原市等の自治体におきまして有識者として公共交通会議に参画されておられます。当日はライドシェアですとか地域全体で支える持続可能な公共交通などにも触れていただくことになっております。

その後に「マイカー公共交通“ノッカル”の取組」として、株式会社博報堂 様に地域の移動課題を解決するための住民同士の助け合いが支える共助型地域交通について先進地事例も踏まえ、ご講演いただくものとなっております。セミナー後には、アンケート調査を行い、今後の事業推進につなげていきたいと考えております。なおセミナー対象者は、市民及び市内事業者となっておりますが、本日ご出席いただいております協議会の委員の皆様にも是非ご参加いただけると幸いです。参加ご希望をされる方につきましては、チラシのQRコードから申込できますし、また企画課のほうに直接、電話連絡いただければ参加できます。飛び入り参加も可能です。

以上で、お出かけツアー及びセミナーの報告とさせていただきます。

続きまして、デマンド運行実績状況について報告させていただきます。

（事務局・鈴木）

10月から運行拡大を行いましたデマンドタクシーについてお話させていただきます。

10月から部原地区及び新官の一部、御宿町までの運行拡大を行いました。

9月末まで小湊鐵道様に、運行管理をしていただいていたましたが、10月よりエミタスタクシー南総様が運行管理に加わっていただき運行共同企業体として出発いたしました。諸処の問題はありましたが

大きな混乱も事故等もなく無事に運行拡大を行うことができました。ありがとうございました。

お手元の資料をごらんください。10月から12月のデマンドタクシーの利用者数について速報値がありますが運行拡大に伴い1日21.7人となりました。

また、これまでに、部原地区で2回、新官地区でも1回の乗り方に関する住民説明会を行い多くの方に出席いただき、デマンドタクシーの乗り方について説明を行いました。この地区の多くの方のご利用をいただいているところであります。

御宿町さんでも広報等で周知啓発及び問合せ対応を行っていただいおり、御宿勝浦間を毎月100回程度のご利用をいただいています。このうちおよそ6割が塩田病院となっています。

このほかにも、電話での問合せも多数あり、乗り方について説明をしているところであります。このためオペレーターさんとも協議をしながら運行拡大地区の道幅が狭い等の地区性を鑑み、乗降場所の集約なども考え、工夫しながら運用を行っております。

この中で、様々な意見もいただきました。今までバスを利用していた関係もあり、部原・新官地区では御宿町に行きたいとの声をいただいています。これについては、今後の状況を見ながらではありますが、この地区の住民の乗り方も踏まえ、共通乗降場を新設して、御宿町にいけるように対応していきたいと考えています。また、かなり複雑になっている乗降ルールや上り下り等の時間による便制度についてもお話をいただいています。もう少し簡単にできないかななどを検討して参りたいと思います。

今後につきましても住民の方々の外出の頻度が増え、交通移動の活性化に向けて取り組んで参ります。以上です。

(会長・加藤委員)

ただ今、『地域公共交通計画における実施事業の進捗状況について』事務局より説明がありました。ご質問・ご意見等がありますでしょうか。特にないようです。

次に、その他として何かありますでしょうか。

4. その他

【その他】

(事務局・忍足)

次回の公共交通活性化協議会の日程でございますが、昨年も年度末に実施しており、お忙しい中で申し訳ございませんが、3月24日(月)14時から、こちらの会議室にて開催予定としておりますので、ご承知くださいますようお願いいたします。また近くなりましたら、委員の皆様には開催通知文を送付いたします。以上です。

(会長・加藤委員)

他に何かありますでしょうか。

何も無いようでしたので、本日の会議はこれをもって閉会といたします。ありがとうございました。

5. 閉会